



原油が続落 需給逼迫観測の後退で

10月31日のニューヨーク・マーカンタイル取引所（NYMEX）で原油先物相場は続落した。WTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）で期近の12月物は前日比1.29ドル（1.6%）安の1バレル81.02ドルで取引を終えた。中国の景気懸念が強まり、原油需要が伸び悩むとの見方が広がった。半面、主要な産油国の供給懸念は和らいだ。需給が逼迫するとの観測が後退し、売りが優勢になった。

中国国家统计局が31日発表した10月の製造業購買担当者景気指数（PMI）は49.5と、好不況の境目である50を2カ月ぶりに下回った。一方、ロイター通信の調査によると、石油輸出国機構（OPEC）の10月の原油生産量は3カ月連続で増えたと伝わった。ナイジェリアとアンゴラの生産増が伸びをけん引したという。米エネルギー情報局（EIA）が31日発表した米国の8月の原油生産量は日量1305万バレルと、月間として過去最高になった。

イスラエルとイスラム組織ハマスの武力衝突が拡大していると伝わっているが、現段階では周辺国の原油供給に影響が出ていないとの見方から過度な警戒は薄れている。もっとも、市場では「中東情勢を巡る懸念は強く、原油価格も状況の変化に非常に敏感な地合いが続く」（オランダのクレイグ・エーラム氏）との見方が出ている。



世銀「原油、年内平均90ドルに」相場見通し

世界銀行は30日、2023年から24年にかけての原油相場見通しを発表した。北海ブレント原油の23年10～12月の平均価格は1バレル90ドルと足元の水準圏内で推移する見込みだ。中東情勢次第で急騰リスクもあるとした。

報告書では、イスラエルとイスラム組織ハマスの衝突が起きた10月上旬以降、原油価格は6%しか上昇していないと指摘。1970年代の石油危機や脱炭素の潮流で石油依存度が減り、「世界経済が原油価格のショックを吸収する能力が高まっている」と分析した。

衝突が激化しない「ベースライン」のシナリオに基づき、24年の原油価格は平均81ドルと下落を見込んだ。世界経済の成長鈍化を織り込んだ。

紛争拡大に備え、3つのリスクシナリオも提示した。11年のリビア内戦時のような「小規模な混乱」シナリオでは、世界の原油供給が日量50万～200万バレル減り、原油価格は93～102ドルに上昇すると見込んだ。

03年に勃発したイラク戦争に相当する「中程度の混乱」シナリオでは、供給量は300万～500万バレル減り、価格は109～121ドルになると想定。1973年の第4次中東戦争時にアラブ諸国が大規模な禁輸に踏み切ったような「大規模な混乱」シナリオでは、600万～800万バレルの供給減を招き、140～157ドルまで上昇する可能性があるとした。

世銀は「紛争が深刻化すれば、世界経済はウクライナ戦争と中東情勢による二重のエネルギーショックに直面する」と指摘。「途上国を中心に食料価格のインフレを招き、世界の食糧不安の深刻化にもつながる」と警鐘を鳴らしている。



円、1ドル151円台に下落 1年ぶり円安水準

31日のニューヨーク外国為替市場で円が対ドルで下落し、一時1ドル=151円台を付けた。151円は22年10月21日以来ほぼ1年ぶり。日銀が31日まで開いた金融政策決定会合で短期金利のマイナス金利政策を維持したことで、幅広い通貨に対して円売りが膨らんでいる。

10月には政府・日銀が円買いの為替介入に踏み切らなかったと判明したことも円売り安心感につながった。

31日の日銀の結果公表前は149円台前半で推移していた。日銀の政策修正が日米金利差の縮小につながる内容ではないとの見方が広がったことに加え、日本時間31日夜に発表した7～9月の米雇用コスト指数が市場予想を上回り、米経済の底堅さを好感したドル買いが膨らんだ。

財務省は31日、政府・日銀による9月28日～10月27日の為替介入実績がゼロだったと発表した。10月に150円を超えて円安が進んだ場面でも政府・日銀が円安を阻止するための為替介入には動かなかったと明らかになり、投機筋による円売りが出やすくなった面がある。

円は22年10月21日に151円94銭の昨年安値を付けたあと、政府・日銀の大規模な円買い為替介入などを受け上昇に転じた。151円台はそれ以降で初めて付けた。1990年以来となる152円台も視野に入り、政府・日銀の対応に改めて注目が集まりそうだ。

円は31日、対ユーロでも下落し、一時1ユーロ=160円台を付けた。08年8月以来、およそ15年ぶりの円安・ユーロ高水準となる。

同日の国内債券市場で長期金利の指標となる新発10年物国債利回りが上昇（債券価格は下落）し、一時0.955%と2013年5月以来10年5カ月ぶりの高水準を付けた。日銀が31日まで開いた金融政策決定会合で金融緩和策の運用を柔軟化し、1%を上回る水準への長期金利の上昇を容認したとの受け止めから債券を売る動きが膨らんだ。



財務省、円買い介入10月ゼロ

財務省は31日、政府・日銀による9月28日～10月27日の為替介入実績がゼロだったと発表した。為替市場では10月3日に一時1ドル=150円台まで下落し、その直後に147円台まで円高が進んだため、政府・日銀が介入に踏み切ったとの観測が流れていた。

財務省の神田真人財務官は3日に円が急騰した翌4日、為替介入の有無について「コメントを控える」と話していた。26日も1ドル=150円台後半まで下げた後に急速に円が買われ、149円台後半まで円高が進む場面があった。

3日の円の急騰はコンピューター分析で売買のタイミングを判断する「アルゴリズム取引」が影響したとの指摘が市場では広がっている。

円買い介入をすると一般的に円は急騰する。150円台に達した段階でいったん利益を確定しようとした大口のドル売りの取引が発生。円高方向への値動きが発生すると円を買うようなアルゴリズム取引が「介入があった」と勘違いして円を買う動きが瞬時に広がったとの見方がある。

かねて財務省は「水準そのものが判断基準にはならない。あくまでボラティリティー（変動率）の問題だ」（鈴木俊一財務相）と、過度な値動きかどうかを見極めて為替介入の是非を判断する姿勢を見せてきた。

今回1ドル=150円台でも政府・日銀が介入しなかったことが判明し、市場の警戒感が緩み円安が進む可能性がある。

政府・日銀は急激な円安・ドル高を抑えるため22年9～10月に円買い・ドル売りの為替介入を実施した。同年11月以降は実施していない。



配送「安く遅く」か「高く早く」か 日本型に迫る転機



「販売の半分が関東向けなのに……」。福岡県筑後市でブランドいちご「あまおう」を生産する下川大輔さんは頭を抱える。

2024年4月からトラック運転手に残業規制が適用されると、まず影響が出るのが農産物輸送だ。福岡から関東へ1人の運転手で輸送する場合、来春からは収穫から販売まで中3日と、これまでより1日多くかかる。いちごの「おいしさ」にとっては、この1日が命取りだ。

JA全農ふくれん（福岡市）はフェリーとトラックを組み合わせれば従来通りの時間で輸送できると試算するが、「コストは2～3割程度上昇する」（岩井順将園芸総合対策課長）。

24年問題は日本全国から安く・早く運ぶ物流網を揺るがし、生活に大きな影響を与える。トラック不足により3割の農水産物が運べなくなるとの試算もある。遠隔地でとれた生鮮食品を食べるには、より高い支払いをしなければならない。

最悪のケースは店頭から商品が消えることだ。欧州連合（EU）離脱で外国人運転手が減った英国では、新型コロナウイルス禍に運転手不足が原因で一時スーパーの棚から生鮮食品がなくなった。24年4月以降、日本でも同様のことは起きうる。

実際、小売企業は店舗配送を途切れさせないための対応に追われている。即時納品ができなければ、店舗にいつでもどんな商品もあるというきめ細かな対応が難しくなる。



セブンイレブン・ジャパンは今秋から全国の約2万店超を対象に、店から発注のあったカップ麺や菓子類などの配送を当日中から翌日に変更した。運転手の数を最低限で回せるようにする。「マンパワーで素早く納品する今までの仕組みは持続できない」（同社）

今回の残業規制の適用はトラックだけではなく、バスやタクシーなど様々な運輸サービスの自動車運転手も対象となる。

沖縄県では修学旅行シーズンの10～12月に1200台分の観光バス運転手が不足している。路線バスも全国各地で運転手不足を理由に減便や値上げが相次ぐ。

警察庁によると大型免許の新規交付者数は10年で2割弱減った。少ない運転手を業種の垣根を越えて奪い合い、各所で運転手不足に伴うひずみが生まれている。

自動車による輸送は生活に根ざしたサービスを支えてきた。それが途絶えれば、そのサービスが立ち行かなくなる。

24年の新生活シーズンではトラック運転手不足による「引っ越し難民」が懸念されている。企業が一律に4月1日付の地域間異動辞令を出しにくくなる時代が近づく。

高いコストを負担して早く届けてもらうか、遅くてもいいので安く届けてもらうか。インターネット通販では、LINEヤフーが遅い配達を選べばポイントを付与している。フリーマーケットアプリ大手のメルカリは、ゆっくり届く配達にした利用者に値引きを検討している。

安くてきめ細かな対応が強みだった日本の小売り・サービス業。運転手不足により転換点に立っている。



週間原油コストの推移

	期間	原油相場		為替レート (▲は円高)		円建て原油コスト	
		ドル/バレル	前週比	ドル/円	前週比	円/ℓ	前週比
火曜日～ 月曜日	9/19～9/25	94.26	0.34	149.03	0.82	88.35	0.80
	9/26～10/2	94.40	0.14	150.41	1.38	89.30	0.95
	10/3～10/9	87.45	▲6.95	150.21	▲0.20	82.62	▲6.68
	10/10～10/16	88.21	0.76	150.21	0.00	83.33	0.71
	10/17～10/23	92.04	3.83	150.83	0.62	87.31	3.98
	10/24～10/30	89.92	▲2.12	151.05	0.22	85.42	▲1.89
水曜日～ 火曜日	9/20～9/26	93.98	▲0.54	149.28	0.82	88.23	▲0.02
	9/27～10/3	94.15	0.17	150.60	1.32	89.18	0.95
	10/4～10/10	86.86	▲7.29	149.88	▲0.72	81.88	▲7.30
	10/11～10/17	88.48	1.62	150.41	0.53	83.70	1.82
	10/18～10/24	92.29	3.81	150.87	0.46	87.57	3.87
	10/25～10/31	89.58	▲2.71	151.00	0.13	85.07	▲2.50

※原油はドバイ、オマーン平均、為替レートは三菱UFJ銀行のTTSレート